

「堺 2 区人工海浜における自然観察及び清掃活動」について（報告）

1. 趣旨目的

堺浜の人工海浜について、海や生物と楽しめ、憩える親水空間を形成することで、大都市生活で失われつつある癒し空間の創出、大阪湾再生やクールシティ・堺のシンボルとなる自然環境創造の研究拠点の形成をめざす。

2. 実施内容

[日 時] 平成25年5月8日（水）

自然観察 12:45～13:30

清掃活動 13:30～14:30

[場 所] 堺2区人工海浜

[参加者] 40名

[主 催] 堺市

[協 力] 一般社団法人大阪湾環境再生研究・国際人材育成コンソーシアム・コア

3. 概要報告

平成25年5月8日（水）12:30～14:30に、CIFER・コアの研究等のメインフィールドである堺2区人工海浜において、堺市主催の標記活動が実施され、当法人会員にも多数ご参加いただきました。その概要を事務局からご報告します。

晴天の堺浜に近づくと、2か所で物流施設建設中のクレーンが10基程度聳えている。こんな場所に人工とはいえ海浜があるのは、いかにも現代の堺らしいと思う。

自然観察のため、砂浜では黄色やオレンジのジャケットを着た「堺エコロジー大学」のメンバーが既に活動中。投網で生物を採集しているのは当法人の理事でもある大阪府立大学大学院の大塚耕司教授。材料が整ったのか、60名以上の大きな輪ができ、中心で解説するのは大阪府水産技術センターの鍋島靖信さん。エビやカレイの稚魚のほか、体長2cm程度の透明なアユの稚魚も登場。アユが群れ泳ぐ姿を早く見たい、そのためにも当法人の活動が大切だと感じた。

自然観察チームが次のフィールドに移動すると、清掃活動の開始。

堺市臨海整備課中尾課長による挨拶のあと、参加者40名が火バサミ、ごみ袋と手の甲に「キープさかいクリーン」と描かれたピンクの派手な軍手姿で、間口約160m、幅約30～40mの砂浜に広がり清掃開始。こんな戦闘姿で改めて浜を見ると、流木、空缶、タバコの吸い殻、花火の燃えカスなどが次々と目につく。1時間近く奮闘した成果は、45リットルのごみ袋100枚の山となり、入りきらない大モノは、そのままダンプに積み込み。

ごみ袋を前に記念写真を撮り、市民が楽しんで遊んでいただける砂浜になることを思い浮かべました。

■自然観察会



■清掃活動





清掃後の人工海浜